

夕陽會報



第191号

②



①



③



◆ 巻頭言 ◆

夕陽会の新しい歩みに思う

副会長 中川 眞一郎

(昭和40年卒)

雪のない暖冬の新春を迎え、森羅万象に天変地異を予感させられながらも、新しい年に夕陽会の夢を託し、平成十九年が始動いたしました。

我が母校、北海道教育大学函館校も函館師範学校、学芸大学、教育大学を経て九十年を経過した今、北海道教育大学函館校「人間地域科学課程」として生まれ変わり、二〇〇六年四月から国立大学法人の下誕生いたしました。

一般的に入手できる大学案内など少ない資料から父母の立場で母校を垣間見ると、新教育大学函館校設立の目標は

一、「人間と地域」の価値を学び研究。
二、「人間と地域」に深い愛情を持つ人材・ジェネラリストを養成。

三、「教員養成」を中心に学芸の教育・研究を継承し発展させる大学。
となっております。

教員養成課程がなくなったとはいえ、人間地域科学課程の中で、人間発達など五つの専攻すべてで教員免許が取得できるシステムが残されていることを嬉しく思っております。これからは、地域における児童・生徒や社会人・企業の指導者としての資質を持ったユニークな人材育成を、発想の転換を図った新大学が、夕陽会支援の下に、どのようにできるのか問われているように思います。

私的なことで誠に恐縮なのですが、私は、檜山乙部町の雇用対策委員会に所属しております。乙部町では寺島町長の肝煎りで、地方では初めて、IT（情報技術）人材育成事業を展開しており、若者達が約三年間の準備期間を経て、ようやく四月に開始できる運びとなりました。

町の支援によるIT人材育成研修は、一年間をかけて、乙部の恵まれた自然環境を生かし「豊かな人間性と一流の技術をもって、進化し続けるIT業界をリードする人材育成」をモットーにしております。応募者は全国を対象にしております、東京・札幌・函館から二十社ほどのIT関連会社の支援もいただいております。

現在、母校が目指す「地域・自治体や企業に貢献できる大学」に期待して、町と大学との連携を進めるため、夕陽会にお骨折りを頂いております。実現できると大学の指導や助言をいただくばかりでなく、学生を含めた地域の教育関係、企業や地場産業との交流が、新たな学習価値や経済効果を生み出すように感じしております。

夕陽会は、九十年の教員養成としての歴史と伝統を生かし、「土地墾闢、人民蕃殖」の精神を次の百年へ、新しい感覚で継承することが、いま要請されているのではないのでしょうか。

栄誉に輝く同窓



○瑞宝双光章

身に余る栄誉に浴して

函館市 黒丸 宗太郎 (昭和14年卒)

昨年七月米寿の喜びを迎えたのに加え八月一日高齢者叙勲の内示があり、早速多くの方々からご祝詞・ご祝電を賜りご芳情の程有難く、厚くお礼申し上げます。九月七日函館市教育委員会より瑞宝双光章の伝達を受け、全く思っても見なかったことであり驚きと感動をひしひしと感じています。これまでにご指導・ご支援下さった多くの方々に深く感謝申し上げます。八十歳を疾うに過ぎ、このような榮譽には縁のないものと思っていまして身にとっては感激の一日でした。

○瑞宝双光章

叙勲を拝受して

北広島市 追分 隆 (昭和20年卒)



九月、夕張市教育委員会より平成十八年秋の叙勲拝受候補の内定通知がありました。候補とは申せ予想もしていなかっただけに驚きと叙勲の重さを感じました。現職中、常に心していたことがあります。それは、次のような経緯から誓った「新生日本を切開く教育」でした。昭和二十年八月十五日正午、重大放送があるというので、教官、学生等が講堂に集合、陛下の「終戦の詔書」を拝聴、込み上げてくるものは涙又涙でした。しばし経過してから自分なりに覚悟したこ

とは、軍国教育を受けたので教師にはなれないだろうということでした。それだけに、卒業と同時に免許資格を載けたことに感無量なものがあつた。この時に誓った責務のような信念でした。以来三十九年余、世相の激しい移り変わりの中であつて小、中十校を歴任、その間、多くの教育関係者のご支援によって得られた成果が晴れの叙勲に結びついたものと存じ厚く感謝申し上げます。最後に夕陽会、並びに会員各位のご発展とご健勝を心より祈念申し上げます。



○瑞宝双光章

心の故郷は夕陽にあり

北見市 原 榮 (昭和22年卒)

平成十八年秋の叙勲拝受は、赤坂プリンスホテルにて厳肅におこなわれ、勲記勲章を受章致しました。終わって宮中に参内、天皇陛下より親しくお言葉を戴き、叙勲の感激をしみじみと味わったのです。「二路至白頭」北海道家庭学校創立者留岡幸助先生座右の銘を今しきみと心に刻んでいます。昭和二十二年、戦後の混乱期に母校を巣立ち、四十一年の教職と私立校の経験は桐花南寮・北寮で培われた「師魂」にほかならないのです。オホーツク海に面した網走管内に小・中十校に及ぶ各地をまわり、常に心した

○瑞宝双光章

先生に憧れて



七飯町 木村 正巳 (昭和23年卒)

叙勲の内示を受けたとき、ビックリしました。思いもよりませんでした。私は、子どもの頃より、先生に憧れており、教師になることだけを、望んでおりました。師範学校に入学できて、何よりも嬉しかったのです。新卒で赴任したときは、終戦後で、新しい国づくりは、人づくりからということとで、学制の大改正が行われ、新しい教育思潮のもと、若き情熱を発揮することが出来ました。常日頃、ひそかな願いとして、子どもや親から、「まる」をもらえる教師にな

りたいと思っておりました。校長になってからは、加えて地域からも、まるをもらえる学校にしたいものだと、つとめてきました。幸い、職員や子ども、親、地域に恵まれ、願望通り教育の職場で、全うすることが出来たこと、最高の幸せと思つて感謝しております。この度、皇居に参内して、強く感じたことは、この国の姿、形(国体)であります。どんなに政権が変わろうとも、変わることをない国体を、肌で感じ、国体護持をねがった、終戦のときのことを、思い出したものです。



○瑞宝双光章

教育と福祉の道

恵庭市 川 畑 敬三郎
(昭和24年卒)

この度図らずも平成十八年春の叙勲に際し、叙勲拝受の栄に浴しました。さっそく夕陽会会長はじめ同窓の方々からご祝意をいただきましたこと心から厚くお礼申し上げます。

函館市内で小学校十六年、中学校七年の勤務を経て渡島へ。渡島では中学校五年の勤務でしたが突如道立の特殊学校へ異動しました。特殊教育は全く未知の世界ではありましたが、病虚弱、肢体不自由の学校を経て知的障害者の高等養護の三校で十一年を経験出来たことは、今にして思う時誠に幸いなことであります。

○瑞宝双光章

夕陽に支えられ同窓に恵まれて

北斗市 田 中 則 夫
(昭和28年卒)



この度は図らずも平成十八年秋の叙勲拝受の栄に浴しました。

夕陽会長はじめ同窓の方々からご祝意を戴きましたことに改めて深く感謝いたします。

母校卒業以来、終始渡島夕陽と共に歩んだ道でしたが、教諭・管理職を通して本道教育界の激動期とか、管理職受難の時代ともいわれる中で「子ども中心の教育」を見失わない実践や経営が出来たことは、良き先輩・同僚・後輩に恵まれたことによるものであります。

には叱咤激励を受け鍛えられたことによつて、はじめて教職という尊い仕事を全う出来たものであり、心から感謝の念を抱くものであります。

また、町教育行政に携わった時も、私の意図する、学社融合の具体的な実践を地域と深く関わりながら、学校長はじめ教職員、地域住民に支えられ、先進的に取組んだことが想い出されます。

これからも一層健康に留意して、教育変革の重要期における対応・充実、夕陽新体制の発展を願うとともに、会員として微力を尽くして参ります。



○瑞宝双光章

出合いの教職生活

岩内町 武 内 満智夫
(昭和30年卒)

平成十八年秋の叙勲で、図らずも受章の榮譽に浴しましたが、これは私を支えて下さった多くの方々のご指導やご協力の賜物と、深く感謝しております。

二十七才にして分校二類に入学し、年齢差を気にしながらの二年間でしたが、無事終了し、私の母校である岩内町の岩内東小を振り出しに、後志管内のみ六町村八校、三十三年間の勤務でした。

私は、幸いにしてそれぞれの学校で、秀れた上司・先輩、心温かい同僚・後輩に恵まれ、「でも、しか教師」としての力量や資質の不足を補うご指導ご支援を

○瑞宝双光章

叙勲にあたって

江別市 小 本 毅
(昭和32年卒)



この度、図らずも平成十八年春の叙勲の栄に浴しました。

文部科学大臣からの勲記勲章の伝達、皇居での天皇陛下の拝謁を賜りましたことに、改めて感慨を覚えております。

私は、在職中の大半を教育行政の場に身を置いていましたし、特筆すべき業績も残していないことから、叙勲とは縁遠いものと思っていただけに身に余る榮譽であり、多くの方々のお力添えの賜と感謝しております。

ともあれ、在職中は幸いに良き先輩、同僚、後輩に恵まれ、その「時」と「場」

受け、一人前の教師として育てていただいたことを、今更ながら深い感慨を覚えて思い出します。

特に、後志夕陽の仲間には、何か事あるごとにご援助をいただき、同窓の温かさを感じながら、後志夕陽とともに歩んだ教職生活であったと言っても過言ではないと思っております。

どのような人との出合いをもてるか、人間のその後の人生を決定づける大きな要因であることを実感した教職生活でした。これからも、その時々の人々との出合いを大切に、生きて行きたいものです。

ご支援、ご協力を得て職務を遂行できたものであり、この上ない幸せ者であったと思ひ感謝の気持ちでいっぱいであります。

それだけに、今後は叙勲の榮譽に恥じることのないように努めて参る所存でありますので、一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後になりましたが、受章に当たりまして夕陽会会長をはじめ、同窓の方々から心温まるお祝いの言葉を頂きましたことに改めてお礼申し上げますと共に夕陽会の発展を心から祈念申し上げます。



北海道教育功績者表彰 人の支えと絆を強く感じて

函館市 沼崎 孝男
(昭和44年卒) 函館市立的場中学校長

昨年十二月、札幌市で行われた北海道教育功績者表彰式に臨み、橋場教育委員長より表彰状をいただきました。

莊厳な雰囲気の中、道教委などを代表する多くの方々の前に立ち、改めてこの賞のもつ意味を強く感じたものでした。

今、教職にあつた三十八年間を振り返り、千歳市での新採用時代、函館市の中学校・管理職のスタートに当たつての小学校・幼稚園勤務を始め、教科サークルや教育センター、道研での研修など、そのすべてが人の支えと絆により成りたつていたとの思いを新たにしております。

北海道教育功績者表彰

多くの出会いに感謝！

岩内町 絹野 秀克
(昭和45年卒) 岩内町立岩内中央小学校長

北海道教育功績者表彰受賞の榮に浴することができましたのも、先輩、同僚、後輩そして子どもや保護者の皆様方の陰と感謝申し上げます。

去る十二月十四日の表彰式に出席し改めてこの賞の重さに身の引き締まる思いで一杯でした。

受賞に当たりまして、川島会長様をはじめ多くの皆様より心温まるお祝いの詞をいただきました心から感謝申し上げます。

また、表彰式前夜に、大変お忙しい中同窓の指導主事会の方々によって祝賀会を開催していただきました。川島会長様、

表彰式の前日には、夕陽の同窓を絆として、在札の皆様を中心に「祝う会」を催してくださいました。会長さんなどの心温まるお話や、ゆかりのある方々から激励をいただき、安らかな気持ちで当日を迎えることができました。

元より、このような賞は、お力添えいただいた皆様や、一緒に汗を流してきた方々のご支援があつてのものです。

これまで歩んできた道で、さまざまなご教示をいただきましたことに、心からの感謝を申し上げ、夕陽会のますますの発展をお祈りいたします。

中瀬副会長様そして須藤幹事長様をはじめ同窓の皆様方より心温まる祝福を受け一生忘れない思い出ができました。

例えば、後志の真狩・川崎小学校（全校児童七名の単級校）を皮切りに、各地で多くのすばらしい出会いが、三十七年間の教職生活を支えていただいたと思っております。

これからも、この受賞の感激をいつまでも忘れず、皆様方のご厚情を大切に、精進して参りたいと思います。



北海道教育実践表彰 「ともに」の精神を広げて

函館市 小岩 眞智子
(昭和44年卒) 函館市立亀田小学校長

亀田小学校が平成十五年度から取り組んできた「特別支援教育」が認められ、平成十八年度北海道教育実践表彰を受賞することができました。表彰状の「教職員が一致協力して、組織的に」という文言が一人一人の笑顔と重なります。

亀田小学校は「天下の亀田」と讃えられる実績と百六年の歴史を誇る学校です。それを支えてきたのは、校歌に記されている「ともに」の精神です。本校の特別支援教育は、まさに「ともに」の精神が生み出したもの。子どもの指導に悩む学級担任を支えようとする仲間意識からス

札幌市教育実践功績者表彰

身にあまる榮譽に浴して

札幌市 横山 眞昭
(昭和44年卒) 札幌市立山鼻中学校長

この度、札幌市教育実践功績者表彰という身にあまる榮譽に浴しまして、改めて責任の重さを感じております。また、受賞に際しまして、川島会長様・須藤幹事長様はじめ札幌支部や多くの同窓会員の皆様からお祝いの言葉をいただきました心から感謝申し上げます。

この度の受賞は、北海道音楽教育連盟の会長として、全道の小学校と中学校の音楽活動の連携に努めた活動が認められたものと思っております。

私たちは組織の一員ですから、現在勤務している職場はもちろん、教科や研究

タートし、「できることから、できる範囲で取り組もう」を合い言葉に、障がいの理解や指導を学び、無理のない協力態勢を創り、広げてまいりました。教職員の温かい姿勢は、子どもにも伝わり、困っている子にそつと寄り添い手助けする子、友達の話をつくり聴き、トラブル解消に力を尽くす子など、明るいピアサポートが「あたりまえ」に展開されているのが自慢です。

今回の受賞は「ともに」の精神を未来につなぐ素敵な指標となりました。ご支援をいただき、心より感謝いたします。

団体等における取り組みを第一としなければなりません。「組織は人なり 人は和なり 和は心なり」の言葉のごとく、組織として人を大切にし、組織のために和と心を育んで、これからも一層努力して参りたいと思います。

ともあれ、札幌市教育委員会、夕陽会や北音楽、そして多くの方々のご支援の賜と存じ心よりお礼を申し上げます。今回の受賞を一つの節目として、これからも皆様方のご厚情を大切に精進して参りたいと思います。夕陽会のさらなる発展をお祈りいたします。



○函館市功労者表彰

ありがたいこと

函館市 金山 正智
(昭和35年卒)

この度、図らずも平成十八年度函館市功労者表彰を頂く栄に浴しました。

函館のまちが好きで、このまちで仕事ができることをありがたと思っています。者にとつて、函館の名を冠した賞を頂くのは、誠にうれしいことでありました。

受賞に際して、夕陽会会員の皆さんからご懇篤なお祝いの言葉をたくさん頂戴しました。心からお礼を申し上げます。

八月一日、市民会館で井上市長から堅木で造られた重厚な表彰楯を手渡されました。手にしてそのあまりの重さにびつくりしました。両腕で抱きながら、この

度の受賞は、多くの方々のご支援とお力添えがなくては叶わなかったことを、しかと腕の軋みのうちに刻み込んでおりました。

そして、函館市教育長在任の十二年間、市の教育にとつて新たな展開が求められる時期でありましたが、多くの方々たちづくりや教育について考えを巡らすことができた幸せな体験を、今、ありがたい思い起こしております。

改めて夕陽会の皆様方のご厚情に感謝申し上げます。夕陽会のますますのご発展をお祈り致します。

○函館市文化団体協議会 白鳳章

不断の研鑽

函館市 中村 薫(朝山)
(昭和30年卒)

この度の輝かしい賞は、私には遥かに遠い存在であった。

「白鳳章受章」突然のことにて日夜、緊張と戸惑いの日々でありました。

新年を迎え二日に、九十六歳の誕生日を迎えた母が、曾孫とともにその喜びを語ってくれ、気がなごんだ一夜でありました。

また、この受章の喜びは、沢山の方々との出逢いが下さったものと、感慨も新たに深くお礼を申し上げます。また、受章に際しましては数々のご祝詞や、今後への励ましの言葉をいただきましたこと

を誠に嬉しく存じます。

今後この受章の重みに屈することなく、常にチャレンジ精神と不断の研鑽に邁進し、努力する覚悟でありますので、今後ともよろしくご指導を賜りたいと存じます。

尚、これからも夕陽会の同窓の方々のお導きをいただければ幸いに存じます。



○北海道書道展準大賞

すばらしい仲間に恵まれて

森町 河合 浩一(蕉竹)
(昭和32年卒)

受賞は身に余る光栄であります。ご支援いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

書は好きで、おもしろくて長い間続けてきましたが、これといつて際立った活躍もしていないのに、恐縮しております。

書の道を生きる柱として、今日まで続けてこられたのは、よき師との出会い、そして、すばらしい仲間恵まれたからと思っております。

私達仲間間で結成している函玄社は、書の啓蒙と発展に力を注いでいます。毎年開いている函玄社展では、一人でも多く

○北海道書道展準大賞

函館市文化団体協議会 青麒麟章

感興・環境・函教！

函館市 大川 富美男
(昭和45年卒 函館市立桐花中学校長)

このたび、北海道書道展準大賞そして函館市文化団体協議会青麒麟章の榮譽に浴し、その喜びとともに改めて賞の重さに身が引き締まる思いであります。これまで永い間厳しくも温かくご指導をくださった諸先輩や支えてくださった良き書道の仲間のお陰で、ただけたものと感謝の気持ちで一杯です。夕陽会からも川島孝夫会長様・伊藤皓嗣支部長様をはじめ、多くの会員から心温まる祝言・祝詞をいただき感激いたしました。ここ数年夕陽会文化部のお手伝いをさせていただき感じたことは、音楽・美術・書道の分野で世

の方に、書のおもしろさを知ってもらいたいと思ひ、生活に密着したテーマを設け、喜んでもらっております。又地元書道展は勿論、道央・中央展にも積極的に出品し、日頃の研鑽の成果を確かめており、高い評価を受けております。

函玄社の掲げているスローガンは、挑戦です。一步でも、半歩でも前進すべく、常に前向きの姿勢ですすめております。

函玄社は、夕陽会の皆様にはいつも温かく見守っていただいております。感謝いたしております。一層のご指導・ご支援の程をお願い申し上げます。

恵まれた環境と風土で学び、飛躍されていることを同窓として誇りに思うところでは、当然のことながら「夕陽美術展」「夕陽音楽会」「夕陽書道展」の企画も函館校ならではの特質すべきものであります。書の世界は果てしなく五十歳・六十歳はまだ序の口といわれております。尚一層鍛錬をし、今回のご恩に少しでも報いたいと肝に銘じております。会員の皆様これからもよろしくご指導をお願いいたします。



○日本バレーボール協会表彰

みんなを代表して

函館市 尾 畠 悌 介
(昭和34年卒)

「表彰式にはぜひ参加してください」と案内文に書かれていたので、昨年六月三十日、代々木国立競技場隣にある岸記念体育館で行われた日本バレーボール協会の功労者表彰式に出席しました。四十名ほどの受賞者のうち、北海道の私だけが日本協会の立木会長より長い表彰状の全文を読み上げられ光栄に思いました。

道内を統括する函館バレーボール協会が発足して今年度で五十六年になるが、過去に日本協会の表彰を受けたという前例を聞いていないので、後にも先にも私が初めての受賞のようです。推薦母体で

ある北海道バレーボール協会の功績概要には、「四十五年近く小中学生を指導し全国大会に五回駒を進めた。永年函館バレーボール協会の役員・会長を務め、数々の国際大会やVリーグを招いて道南のバレーボール愛好者に超一流のプレーを觀戦させ喜ばれた」というようなことが書かれていたようです。

この度の受賞は確実に函館バレーボール協会の役員と多数のバレーボーラーを代表して私が頂戴したものです。川島夕陽会長や多くの方々から祝詞祝電を頂戴し恐縮至極に存じております。

○函館市スポーツ賞（功労者部門）

陸上競技に出会えた感謝

函館市 田 口 純 子
(昭和33年卒)

この度函館市スポーツ賞を受賞するにあたり、多くの人達の力添えと支えて下さった皆様、又、中学入学と同時に陸上競技と出会い、中学、高校と指導し導いて下さった先生方に心から感謝申しあげます。陸上競技の指導者として四十八年間、練習を共にしてくれた多くの選手達に、「君達がいたから今がある」と大きな声で感謝を申しあげます。陸上競技は地味で面白さが少ないスポーツです。走る事が好きで喜びを感じてくれる選手達をたくさん育てる事だと思い、記録に挑戦し達成した時の喜びが競技が好きにな

り発展につながると信じ指導してきました。叱咤激励に耐えて練習し、全道や全国大会で入賞・優勝し喜びの顔をみた時長い間、陸上競技の普及と発展、競技力向上に情熱を傾けた苦勞を忘れ嬉しさが込み上げてきます。夕陽会員の一人として、先輩諸氏の力添えをいただきながら今日まで子供達に接してこられた事に感謝し、多くの人がスポーツが好きで、生き生きと生活出来る心と身体が育つよう今後も指導者として陸上競技との関わりを大切にしていきたいと思えます。夕陽会の皆様ありがとうございました。



○日展入選（書部門・篆刻）

日展入選を受賞して

八雲町 下山 訓
(平成四年卒 八雲町立八雲中学校)

この度、第三十八回日展第五科・書（篆刻）で、新入選という、誠に榮譽ある賞をいただき、光榮至極に存じます。

受賞にあたりまして、夕陽会・諸先生方など、各方面からお祝いの言葉をいただき、心から感謝申し上げます。

思えば、大学三年生の時、篆刻と出会ってから今日に至るまで、あつという間であつた様な気がします。まだまだ未熟な知識・技術ですが、この受賞を期に、より一層努力して参りたいと思います。

そして、篆刻の楽しさやおもしろさ（難しさも含めて）を、多くの人々に伝えて

いくのが、私の役目となつていくと思えます。また、篆刻を通して、人とのつながりや、感性を豊かにし、教育に役立てていければいいと思いますし、自分の幅を広げていきたいとも思っています。

今後も夕陽会の皆様、諸先輩方のご指導のもと、精進して参りたいと思います。末筆ながら、夕陽会のみすますのご発展をお祈り申し上げます。



夕陽会は 函館校並びに函館校の学生を 応援しています！

夕陽会は、母校函館校や学生の就職対策や部活動、各種事業・発表会等への助成や会長賞等の授賞を行い、活動の支援を行うとともに、学生の在学中からの同窓会への意識付けを図っています。

- 教員採用試験対策支援
- 剣道部（女子・個人戦・団体戦）全国学生選手権大会出場
- モダンダンスクラブ全国コンクール・神戸市長賞
- バレーボール部（女子）全日本学生選手権大会出場
- 美術研究室学生作品展開催・会長賞贈呈
- ワッショイはこだて（函館市港祭り）に附属学校園と共に参加
- 第十回サマースクール・イン・函館（障害のある子どもの余暇活動）開催

会務報告



幹事長

須藤 由司

(昭和52年卒)

《一般会務》

12・2 本州（東北ブロック）支部幹事

長会議を開催する。（青森）

9 本州（関東ブロック）支部幹事

長会議を開催する。（東京）

13 北海道教育功績者表彰受賞を祝

う会を開催する。（札幌）

14 北海道教育大学長・理事等と北

海道教育大学五校同窓会長との

懇談会に川島会長が出席する。

16 夕陽会報第190号を発行する。

函館市文化団体協議会白鳳章・

青麒麟章受賞者に祝意を表す。

1・23 日展入選者に祝意を表す。

指導主事等候補者激励会を開催

する。（札幌）

12 奈良東京支部長と支部運営等に

ついて川島会長・須藤幹事長が

懇談する。（函館）

15 第二回本部役員会・創立九十周

年記念実行委員会事務局会議を

開催する。（函館）

20 夕陽指導主事等会幹部と会運営

等について川島会長・須藤幹事

長が懇談する。（函館）

2・5 「函館校サマースクール・イン・

はこだて」（代表木村健一郎教

授）の渡島管内教育実践表彰式

に須藤幹事長が出席する。（函館）

7 北海道教育大学五校同窓会長懇

談会に川島会長が出席する。（札幌）

7 吉田洋一北海道教育委員会教育

長と五校同窓会長との懇談会に

川島会長が出席する。（札幌）

18 中川副会長と本部・支部運営等

について須藤幹事長が懇談する。

21 函館校信田就職相談員と就職対

策等について懇談する。（函館）

《支部総会・祝賀会・個展等》

11・11 昭和37年学大Ⅱ類同期会に祝意

を表す。年卒（函館）

11 北師同窓会函館・渡島支部同窓

会懇親会に川島会長が出席する。

11 体育研究室主催米谷元捷教授退

職を祝う会に川島会長が出席す

る。（函館）

19 附属養護学校開校三十周年記念

祝賀会に尾島副会長が出席する。

12・9 東京支部総会・年末懇親会に川

島会長・須藤幹事長が出席する。

11 札幌支部教育懇親会に川島会長

が出席する。（札幌）

27 生涯スポーツ課程同窓生の集い

に祝意を表す。（函館）

1・8 特殊教育諸学校支部総会に川島

会長・須藤幹事長が出席する。

10 高等学校支部総会に川島会長・

須藤幹事長が出席する。（札幌）

13 青森西北五支部総会に須藤幹事

長が出席する。（五所川原）

27 後志支部受賞祝賀・退職激励会

に川島会長が出席する。（余市）

27 網走連合支部総会・懇親会に須

藤幹事長が出席する。（温根湯）

27 胆振連合支部総会・懇親会に土

谷副幹事長が出席する。（室蘭）

28 田中則夫前上磯町教育委員会教

育長叙勲受賞祝賀会に川島会長

が出席する。（函館）

3 岩手支部総会・懇親会に須藤幹

事長が出席する。（水沢）

3 数学科研究室主催岡部勝幸教授

退職を祝う会に川島会長が出席

する。（函館）

10 日高支部総会・退職激励会に尾

島副会長が出席する。（新日高）

10 渡島支部支会長・幹事長会議に

須藤幹事長が出席する。（函館）

10 渡島支部勇退者激励会に川島会

長・須藤幹事長が出席する。（函館）

17 苫小牧市支部退職激励会に川島

会長が出席する。（苫小牧）

18 檜山支部・総会・退職激励会に

須藤幹事長が出席する。（江差）

23 函館市支部受賞祝賀会に川島会

長・須藤幹事長が出席する。（函館）

平成19年度

本部総会・懇親会

◆期 日 平成19年6月16日（土）

◆会 場 函館国際ホテル
(函館市大手町16-9 ☎0138-23-6161)

・支部長会議 午後1時30分～

・総 会 午後4時～

・懇 親 会 午後5時30分～

平成十八年度 研究助成報告

今年度の研究会・研修会等への助成実績がまとまりましたので、お知らせします。（研修部）

○ 十勝巴湾会夕陽会合同中堅教師学習会

○ 空知支部教育講演会

○ 札幌支部研修会

○ 留萌支部教育懇談会

○ 石狩支部研修会

○ 上川支部研修会

○ 小樽支部研修会

○ 特殊諸学校支部研修会

○ 日本教育会全国大会函館大会

○ 北海道特殊学級設置学校長協会経営研究会

○ 渡島教育研究会連絡協議会森大会

○ 北海道特別活動研究会胆振・伊達大会

○ （伊達市立伊達小学校・中学校）

○ 東村山市立北山小学校公開研究会

○ 上土幌町立上音更小学校実践研究発表会

○ 更別村立更別小学校公開研究会

○ 北斗市立島川小学校公開研究会

○ 北斗市立上磯小学校公開研究会

○ （函館市立亀田小学校公開研究会

○ 附属函館小学校研究大会

○ 附属函館中学校研究大会

○ 附属函館幼稚園研究大会

○ 附属養護学校研究大会

○

○

○

○

○

○

○

社会に活躍する同窓



きつかけ、そして

ニューメディア函館センター放送部 一 森 裕 正
(NCV) (平成14年卒) 函

大学三年の秋、教員養成課程でない私の課程(総合科学課程情報科学コース)では、就職活動の準備にソワソワし始めていた。七飯町大沼にあるネイパル森で研修会が行われ、民間企業に内定した先輩からは、面接の様子やエントリーシートと呼ばれる履歴書の書き方などが説明された。私は、「人の役に立つ仕事がしたい」漠然とした考えを持ちながら、「警察官」や「市役所職員」などの採用試験問題集を開き始めていた時期だ。

そんな中、卒業を間近に控えた先輩から引継ぎを兼ねて、函館市内のTV放送局のアルバイトを紹介してもらった。仕事内容は、主にニュースカメラマンの補助で、取材の現場に行き、カメラの三脚を担いだり、取材で使用する照明機材やマイクを準備したりする役割をしていた。はじめは正直、この仕事に興味がなく、「時給が高いから」という理由で、淡々と仕事をこなしていたのを覚えている。今もなお、放送に携わっているとは、この時、思ってもいなかった。

大学四年になってからもアルバイトは続けた。ある日、記者が企画した取材にカメラアシスタントとして同行した時だ。この日は、太平洋戦争中、函館にあった

連合軍の捕虜収容所の跡地で、地元住民の証言インタビューをとる取材だった。

インタビューには、小さい頃から船見町に住む老人が受けてくれた。老人の証言では、現在、船見町にある火葬場の横に、太平洋戦争中、捕虜収容所があったということだ。老人は子どもの頃、この近くで、よく友達と遊んでいたのだという。函館に住んでから丸三年が経ち、函館を知っているつもりでいた私には、とても衝撃的な話であった。帰り際、老人は重い口を開き、静かに私たちに語り掛けた。

「たまたま、ここに遊びに来ていたとき、朝鮮人の捕虜がいた」小さな声で何か話しているの、耳を澄ましてみると、さむい、寒いと、聞こえた「私は寒いのか?と何度か質問したが、返事は返ってこなかった」「それでは、可哀相だと思い、履いていた靴下をその捕虜にあげた」「次の日、またその場所に遊びに行くと、兵隊が集まっていた」「私があげた靴下で首吊り自殺をしていた・・・」

老人が子どもながらにその光景を目にした気持ちを考えて胸が痛くなった。また、老人の言葉が耳に残ったまま、次の取材へと向かった。そこでも耳に針が刺さるような証言が聞こえてきた。

「朝鮮からの強制労働・・・」

「三疊ほどの間取りに十人くらいで寝泊まりし、休みもなく炭鉱で働かされた・・・」「日本人を恨んでいないと言え嘘になる。だが、私も日本人と結婚し、子どもや孫たちも日本人だ」「子どもたちには、二度と同じ思いをさせたくない・・・」

涙ながら語る姿に、マイクを持つ手が震えた。この頃は丁度、日韓ワールドカップを一年後に控え、日韓の友好ムードが高まりを見せていた時でもあった。そんな状況とは裏腹に、見ている光景は、とても悲しかった。



公務員試験の当日、私はいつもと同じように三脚を担いでいた。

「放送に携わる仕事がい」と決めたのもこの頃だ。私は当時、函館で開局したばかりのケーブルテレビへ入社した。

初めは、制作プロダクションに所属し、本社のある山形県での勤務となった。父が転勤族であったせいか、各地を飛び回るのは抵抗がなかったが、唯一、苦勞したのは、「方言」であった。特に、「じつちや」と「ばつちや」(山形弁でじいちゃん、ばあちゃんの意味)たちが発する言葉は、まるで外国語のように聞こえた。

はじめは、方言が聞き取れず、取材するのにも一苦勞であった。だが、この方言のおかげで、相手を理解しようと必死に

なっている内に、自然と地域に溶け込んでいった。

ある時、山菜採り名人のじつちやを紹介する番組を作ったことがある。じつちやは、慣れた手つきで次々と山菜を採っていく。少々、無口ではあるが、腕は確かだ。男の山菜料理なるものも教わり、収録は無事終了した。

その放送が終わって三日後くらいに、一本の電話が鳴った。電話は、山菜採り名人のじつちやだった。独特の訃りで、口調が早く、怒っているようにも感じた。慌てて家に行くと、そこには、山菜のフルコースと自家製の漬物が待っていた。話を聞くと、放送を見た孫の友達が、「お前のじつちや、すげえなあ」と小学校で話題になっているとのこと。じつちやは少しはかみながら「最近、少し孫が話を聞かなくなってきたから、ちようどえがったよ」と話してくれた。

函館に戻ってきてから二年が経とうとしている。今でも照れ笑うじつちやの顔が、時々、頭に浮かぶ。

人と人との繋がりが、日々希薄になりつつある中、今の夢は、放送を通して多くの人と出会い、地域にたくさん笑顔がふれることだ。



第八回 夕陽書道展のご案内

文化部長 玉手道男
(昭和48年卒)

四年に一度の「夕陽書道展」です。全国各地で書に親しんでおられる同窓の皆様、声をかけ合ってご出品いただき、書を通して「生きる証」の交流の場となれば幸いです。開催のご案内をいたします。

会期 平成十九年七月十一日(水)～七月十六日(月)
会場 函館市芸術ホール・ハーモニ―五稜郭ギャラリー
出品者 (顧問出品者) 現旧母校教官
(特別出品者) 書道展実行委員会が特に依頼する夕陽会会員
(一般出品者) 平成十九年三月までの卒業会員
(装丁) 額表装 軸表装に限ります。仮巻は認めません。
(部門) 創作、臨書、漢字、かな、近代詩文書、篆刻、刻字、墨象など自由です。

作品規格

(寸法) ①縦・横 共に一八〇cm以内
②六〇cm×二四〇cm以内(縦のみ)

貸額案内をご利用の場合、業者と連絡を取ってください。

【業者】 梶大雅堂 函館市桔梗四丁目三十三の八

電話〇一三八(四七) 四九九八

作品(搬入)

平成十九年七月 十日(火) 午後四時三十分
(搬出) 平成十九年七月十六日(月) 午後五時

(方法)

本人または代理人、貸額業者、表装店を経由して会場で確認し搬出入することとし、作品のみを会場に送りつけることはご遠慮いただきます。

費用

出品料は徴収しませんが作品にかかわる費用はすべて出品者の自己負担とさせていただきます。

出品申込み

詳細については、事務局にお問い合わせ願います。

オープensemレモニー

七月十一日(水) 午前十時より会場にて。
七月十四日(土) 午後六時より「ホテル法華クラブ函館」で祝賀懇親会を行います。

■実行委員会事務局■

函館市立駒場小学校内 高村 幸子
(函館市駒場町一番六号) 〇一三八・五二・二三六四

夕陽会創立九十周年

記念行事・事業の準備状況(その二)

去る一月十五日(月)に第二回本部役員会兼九十周年記念行事・事業実行委員会が開催され、各部の部長から事業内容案の報告がありました。各部の事業内容案の概要は次のとおりです。

○記念式典部

『夕陽会創立九十周年記念式典』
期日 平成二十年六月二十一日(土)
会場 函館ハーバービューホテル
時間 十三時三十分～十五時

○記念祝賀会部

『夕陽会創立九十周年記念祝賀会』
期日 平成二十年六月二十一日(土)
会場 函館国際ホテル
時間 十七時三十分～二十時

○記念事業部

『夕陽会創立九十周年記念音楽祭(第九回夕陽音楽祭)』
『九十周年記念教育フォーラム』の開催

○記念誌発行部

『夕陽会創立九十周年記念誌』の発行

○総務部

記念品案……記念誌、記念DVD、夕陽グッズ(ネクタイ、スカーフ、文房具等)

夕陽記念館改修事業……パンフレット作成、オープニングセレモニー

夕陽会創立九十周年記念会会員名簿の発行及び会員拡大キャンペーン

各支部、会員からのアイデア、ご意見を募集中です。文書、FAX、Eメール等でお寄せください。

なお、次回会議は三月下旬の予定です。

夕陽会創立九十周年記念行事・事業の成功に向け、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。
(幹事長)

「寄付ありがとつぎいます」

「臥牛会(昭和11年卒)より」

昭和十一年卒業生の同期会である「臥牛会」より壱萬円のご寄付をいただきました。

同会代表幹事の細田辰男氏(本部顧問)が二月、川島会長と懇談したおり、同会の解散にあたり同期一同より本部に寄付を決めたことが伝えられました。

夕陽会八十周年誌「臥牛会六十二年のあゆみ」は、「昭和十一年の早春、あの皇道派青年将校による二・二六事件、その余韻くすぶる三月十五日、第十九回卒業式が挙行され……」という文ではじまり、同会の歴史の長さを痛感させられます。私たちといたしましては、夕陽会最高齢者同期会である「臥牛会」が解散されることを大変残念に思うと同時に、長年にわたり同期会を継続されてきた熱意とご苦労に対し敬意と感謝の念を表したいと思います。

今後もお元気で活躍されますことをご祈念申し上げます。

(財政部)

第十九回 桐花寮

「悪太郎会」開催のご案内

※六十年安保当時の在寮生の会です。

期 日 平成十九年十月三日(水)

場 所 函館市湯川「啄木亭」

連絡先 佐藤 洋(昭和36年Ⅱ卒)

☎〇一三八(五五)八八一六

寄贈図書を紹介

「少年のころ」

森野 司 著

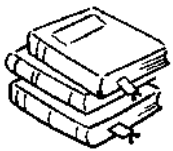
渡島支部所属(昭和45年卒)
七飯町立大中山中学校教諭

同氏は、定年退職の記念として、自身の半生を振り返って、平成十九年二月、本書を自費出版されました。本書は、A5判、二百七十ページの大作で、第一部は「小中学校時代の絵や作文」、第二部は「道新『読者の欄』に掲載された二十七編」、第三部は「明治生まれの祖父と大正生まれの父の人生」という三部構成になっています。

同氏は、国語を専門に指導する傍ら、プロ級の腕前であるギター演奏の指導等で、三十年あまり中学校の教師を務め、その情熱ある指導で多くの若者に定評がありました。「家族の温かさや近所との付き合いのあつた当時の様子を若者に伝えたい」と思い立ち、本書を著した。」と述べておられます。

時代背景に興味もわき、なかなか読み応えもある内容となっています。夕陽記念館に展示しておりますので一読をお勧めいたします。

(厚生部)



「大雪山愛の鐘」改修



「大雪山愛の鐘」は、一九六二年十二月三十日、道学芸大函館分校山岳部員十名が旭岳で遭難した痛ましい事故を契機に、大雪山で遭難した多くの登山者の靈魂を慰めるとともに、濃霧や吹雪の際の事故防止の願いを込めて、翌年九月二十九日に多くの方の協賛を得て製作・建設されました。



しかし、建立後三十年を経た頃から老朽化による鐘の落下事故などがあり、関係団体を中心に改修の計画が進められておりました。

夕陽会様特別割引あります!!

J R 函館駅徒歩3分と好立地!!

フィットネスホテル330 函館

最上階10階から函館山、函館湾が一望できる炭焼きレストラン大好評中

- ご宿泊 シングル¥6,000~ ツイン¥10,000~ (季節変動ございます)
- ご宴会 大小会議からご宴会、各種パーティーお受け賜ります。最大120名様まで
お得なご宴会プランは一人様¥3,000より(飲み放題付、税サ込みプランです)
- IN 15:00 OUT 11:00 ●収容数全112室155名様 ●駐車場64台、大型車(要予約)
- 特典 ご宿泊の方はプール、サウナ、スポーツクラブご利用無料です(休館日あり)
- ご予約はお早めに

函館市若松町6-3 TEL 0138-23-0330 ご予約担当 中野まで



この度、夕陽会をはじめ全国の鐘を愛する多くの方のご支援により、昨年七月二十四日に「大雪山愛の鐘」改修のセレモニーが行われました。出席されました伴達夫氏(昭31卒)より写真の提供を戴きましたのでお知らせいたします。

支部の歴史をふりかえって



キラリと光る少数精鋭の巴湾会として 夕陽会十勝支部の歩み

十勝支部長 徳成達廣
(昭和46年卒 更別村立更別小学校長)

「巴湾会の歴史について、第十八代会長谷地田収一氏(昭和20年卒)がまとめてくださった。」

『十勝に最初に同窓会ができたことについて佐藤馬太郎氏(大15年卒)は巴湾の「かけはし」昭和五十二年発行に、「私が新卒の年の大正十五年の秋、今の六花亭の所にあつた菊世界という食堂の二階で函館師範学校の十勝同窓会の創立総会を開き一回生の高橋正男氏(大7年卒)を会長に選んで大気炎をあげた時の光景がまざまざと脳裏に残っている……」とあるので、大正十五年に同窓会が誕生したのであるが、十勝全域に亘っていたのかは定かでない。』

昭和五十六年十月十五日発行の「かけはし」に本家誠一氏(昭和10年卒)は次のように掲載している。

『十勝では夕陽会十勝支部と言わずに「巴湾会」と称している。これは十勝に同窓会組織ができた時からのことである。……函館を遠く離れている我々にとつては寮歌の歌い出しの第一語からとつた「巴湾会」の方が一層函館を思わせる。……巴湾会の生い立ちについて中川庄作先生(大14年卒)に記憶を辿つて話を聞き、その概要を知ることができた。昭和三年、一回生の夕陽会初代会長高坂久喜

名幹事長として今日の巴湾会を育成するの尽力した以後会長は長谷部茂氏(大10年卒)、田辺房太郎氏(大10年卒)を経て、中川氏が会長になっている。昭和三十年、釧路教育局から紅林晃氏(昭和4年卒)を十勝教育局長に迎えた。戦前の高橋視学は独特なやり方で有名だったが、短い在任期間で実績を挙げ、十勝の全職員からばかりでなく、あらゆる階層から讃辞を受けた。渡辺、紅林両局長の功績は偉大なものであつた。戦後の同窓会活動は親睦団体的活動から更に幅広いものとなつてきた。十勝二千三百人の教員の中、百八十名の同窓生がどう生き抜いていくか、これは道南同窓生が想像も及ばない斗いである。日高連峰、狩勝峠を越えて十勝の大平原が拓けている、ここにこそ「土地懇闘」「人民蕃殖」の精神が生かされるべきと、元新得教育長尾沢彰氏(三回生)を先頭に立てて頑張っている。』と綴られている。

氏(大7年卒)が十勝に來られ、中川氏のいた浦幌の「かしわ屋」というそば屋で懇談した。「十勝でも同窓会の支部をつくつたらどうか」と言われたのがきっかけで先輩の高橋正男氏、西村栄氏(大9年卒)らに進言、同窓会をつくる話し合いを進めていった。しかし、正式に発足したのは昭和六年で帯広市を含めた十勝全町村の同窓生で組織し、会長には高橋正男氏が就任した。当時の会員は八十名足らずであつたという。昭和七年、高橋秀一郎氏(一回生)が視学として来勝したので顧問にされた。次いで帯広高女に石黒喜喜志氏(一回生)が來られて二代目の会長になった。

昭和十年の十月十二日、帯広市商工奨励館の大ホールで総会が開かれた。会員は百四十七名となつてゐる。

昭和十一年、帯広市と分離することになり、ここに現在の十勝巴湾会が誕生し会長に石郷岡筆助氏(大10年卒)が就任したのである。この頃から戦争時代となり教育界も戦時色に押し流されて同窓会活動は立ち消えとなつてゐた。

戦後の昭和二十二年、渡辺利春氏(大13年卒)を教育課長に迎えて同窓会の再建を図る声が高まり、昭和二十四年、西村氏を会長として再発足した。中川氏が幹事長になったが引き続き三十五年まで

分ける事とした。広報部に金川重雄氏(昭和8年卒)がなり、「かけはし」に情魂を傾けた。昭和四十一年に第二号、昭和四十六年には、会津徳二氏(昭和16年卒)と共に、「かけはし五十号」特集記念号を発行したのである。会長は船尾武氏(昭和3年卒)、池田茂市氏(昭和4年卒)、池田田蔵氏(昭和8年卒)と変わり、昭和四十九年、大ボス本家誠一氏が会長につき、花の十年組として敏腕を発揮した。次いで、樋渡実氏(昭和13年卒)が会長になった。昭和五十年本家氏が、昭和五十一年樋渡氏が北海道教育功績者表彰を受けられたことは十勝巴湾会の誇りでもある。続いて教育者三兄弟の長男である辻田真市氏(昭和13年卒)が会長となつた。昭和五十四年一月三十一日には「かけはし」一〇〇号特集が発刊された。

そして、大目付大久保彦左右衛門的存在で何事にも意見を言い、学究肌の西股光生氏(昭和17年卒)が会長となり、巴湾会一部会の研修会にも力を入れた。当時あまりされていなかった公開研究会を毎年開催し、十勝教育にも大いに実績をあげた。その後、若くして校長になつた石谷辰雄氏(昭和22年卒)が会長となり、巴湾会運営に辣腕を振るつた。

現在、会員は現役百三名・OB五十五名であり十勝教育界においてキラリと光る少数精鋭の巴湾会を目指し活動している。

第七代会長に中川庄作氏がなり、幹事長に本家誠一氏がなつて巴湾会も新体制となつた。中川氏と本家氏の並々ならぬ努力は巴湾会活性化の立役者と言つても過言ではないと思う。

智将と言われた野里勁八氏(昭和4年卒)が八代会長になるに及び、機構を改め縦割りに組織・調査部、研修部、広報部、横割りで一部、二部、三部と卒業年次で

結びに、高橋正光氏(昭和17年卒)による本会の中心標榜を紹介する。「出会いを求め同窓の密度を高めよう。出会いなくして組織の力は高まらない。それは二人だけの出会いでも組織的な集いでもよい。目的が鮮明でもない集いでも。いやかえってそれが心のつながりになり邂逅の価値を高めることとなるう。」



教育連携を通じた地域貢献

教育連携センター長 後 藤 嘉 也
(函館校教授)

だが危険のあるところ
救うものもまた育つ

(ヘルダーリン)

平成十六年度から国立大学は国立大学法人になりました。

法人化により、それぞれの国立大学法人は、国民の税金に支えられて存立する組織として、学長の強いリーダーシップのもと、自らの責任において、国民の負託にこたえなくてはならなくなりました。それは、人材養成と学術研究という役割をこれまで以上に果たすこととやらんで、地域貢献や産学連携を強化することをも求められるということを意味します。

こうした責務を果たすために、国立大学法人は、六年間の中期目標と中期計画を設定し、これを実施しています。法人化の六年後には、その活動状況と成果について、大学評価・学位授与機構などの評価を受け、それが大学のその後の運営費交付金（国から支出されるお金）などに明確なかたちで反映されることとなります。計算上は平成二十一年度終了後ということになりますが、実質的な評価の準備はそれよりずっと早くから進められるでしょう。

国立大学の法人化にともない、北海道教育大学は国立大学法人北海道教育大学となり、独自の中期目標と中期計画を定めました。中期目標のなかでは、基本目標として「北海道

教育大学は教員養成と地域人材養成に関する国民と北海道民の期待に一層応えるため、大学の基本的な目標と理念を自ら定め、これに基づいて不断に改革の実を挙げる」ということが記されています。

わが函館校は、この基本目標を達成するため、平成十八年度から「人間地域科学課程」としてスタートしました。人間地域科学課程として、地域人材養成に関する教育研究と地域貢献を果たす責務を負い、その成果を評価されることになったというわけです。

と、ひどく大上段に振りかぶって書いてしまいました。学長でも副学長（函館校担当）でも何でもなかった、たの平教員のくせに、まあ偉ぶって……。それにもかかわらず、こういう身の程知らずをあえてしたのは、夕陽会のみなさまに、「母校の今」について、とりわけ、人間地域科学課程の発足とともに新たに設置された教育連携センターについてご報告する上で、これらの点はどうしても書きもらすわけにいかないことだと思われたからです。

つまり、次のことを前置きとしてお伝えしなくてはなりません。国立大学法人は人材養成（教育）・研究・地域貢献をもとめられており、函館校は地域人材養成について、この要請に応えられるかどうかを問われているのです。そして、これは函館校の浮沈にかかわり、だからこそ、教育連携センターが地域連携センターな

どとともに函館校に組織されたのです。

そこでようやく本題です。教育連携センターは、端的に言えば、函館校が学校との教育連携をとおして地域に貢献することを任務とする組織です。地域の幼稚園・小学校・中学校・養護学校との教育連携や、地域の公立学校・教育機関との教育研究プロジェクトの推進などが主な仕事です。そのほかに、これまで北海道教育大学の中期目標の一つである、大学と附属学校の密接な教育研究連携も、教育連携センターの任務に含まれます。センター員は大学教員が五人、附属学校（小学校・中学校・養護学校・幼稚園）の教頭四人、計九人からなっています。

本センターが発足初年度に行った種々の活動から、主なものとして二つのものだけをご紹介します。

まず、「教育支援ボランティア」という取り組みの実施体制を整えました。「教育支援ボランティア」とは、教員になろうとする意欲の高い学生を、ボランティアとして学校等に派遣し、教育活動を支援するというものです。これは、大学と学生が地域の教育に貢献すること、学生が地域連携に対する意識を高め教員としての資質を向上させることを目指しています。もちろん、これは教育連携センター単体の試みであらうはずはありません。函館校と教育委員会や学校現場との連携によって始めて可能となるものです。平成十八年度には、函館市教育委員会や函館市小学校長会、函館市中学校長会のご協力を仰いで、準備を整えることができました。

また、地域の高等学校の要請にこたえて出前講義を行いました。函館校の教員が、学校教育に関するテーマで二つの高

校に、国際協力に関するテーマで一つの高校に講義に赴き、幸いどれも高校生から好評を得ることができました。

あれ妙だな、おかしい、と思われた方もおいでかもしれません。函館校から学校教員養成課程は消えたのではないかと、そうだとすると、学校教育連携をとおした地域貢献が函館校にふさわしいだろうか、まして教育支援ボランティアに出かけられるような（学校側から言えば受け入れられるような）学生が今後いるのだろうか、という疑問もあるでしょう。

しかし、大丈夫です（私たち函館校の人間は誤解を解く努力がまだ不足していますが）。人間地域科学課程は、人間発達専攻をはじめ五つの専攻すべてで教員免許状が取得できますし、教員を養成することを重要な教育目標の一つとしています。事実、人間地域科学課程の多数の学生が教員を志望しています。函館校は、教員養成課程ではなくなったものの、教員養成を捨てたわけではまったくくないです。

したがって、教育連携センターの仕事は、函館校にとっても地域にとっても、きわめて重要です。夕陽会のみなさまには、さまざまな面からのご支援とご教示をお願いする次第です。

最後に、冒頭に掲げた詩句に関連して蛇足を加えます。国立大学法人化に見られるように、大学は――また学校一般が、大げさにいえば日本社会全体が――変容を迫られています。筆者のような古いタイプの大学人には、意に反して追い立てられているという思いもないわけではありません。けれども、この苦しみを見つめることのなから、よきものもまた生まれるのではないのでしょうか。



上川支部だより

上川支部長 石川 博美
(昭和49年卒 旭川市立台場小学校校長)

「旭川教育の窓」このような団体名で夕陽会上川支部の役員会をもつようになったのは、私が支部幹事長になった頃からでした。それまでは、居酒屋などで

食事をとりながら、主に役員同士の懇親を深めることが、会議で集まることの大きな「ねらい」だったような気がします。大きな声を出す必要も無く、和気藹々とした中で「じゃあ、またね。」と言って解散したのですが、結果として同窓意識が脈々と引き継がれてきました。会員層も、先輩OBの方がまだお元気で矍鑠としておられましたので、現職は、叱咤激励(指導)される場面が多く、その分ゆとりがあったのでした。

あれから、ちょうど十年たちました。本部が安島会長から、川島会長へとバトンタッチされて三年目。いつしか自分が支部長となって、今この原稿を書いております。十年一昔。支部の現況もすっかり様変わりしてしまいました。

一つめ、会員世代交代が進みました。全会員百二十名中、OB三十名、昭和卒三十名(義務十二名)、平成卒六十名(義務四十名)と、圧倒的に若い世代が多くなってきました。

二つめ、平成十八年度総会で明らかにしたのですが、自分の舵取りのまずさから、支部財政を逼迫させてしまいました。(繰越金がマイナスとなり、借入金で決

算処理)夕張市のような深刻さはないものの、安定した財政確立を図ることが至上命題となっております。

三つめ、OB諸氏の高齢化が進み、計報に接する機会が多くなったり、病氣治療(昭和23年卒遠藤博三氏)、雪対策(昭和19年卒中尾之弘氏)のためだったりして上川を去られる方がでてこられたことです。

このような状況ですので、支部役員会の中でも意見のぶつかり合いも増え、より具体的な方向が打ち出されるようになってきています。例えば、①支部OBだより「夕陽が丘」の発刊。OBの方が支部の会合や催しに参加されない寂しさを埋めようと努めた。②OB慶弔費の新設。一口五千円、懇親会時に一人五百円カンパをお願いし、OBの恩顧に報いる基盤整備を図った。③会員研修会の開催。上川の教育を支えている自負をより強固にし、自分の職場で信頼され、活躍できるように願いを込めて。

本部の地より遠く離れた上川にいる私にとって、会務を遂行することには、楽しさと苦しさの伴います。ですが、本部総会時には、会長をはじめ、お会いする方々が「遠いところからご苦労様。」とねぎらいの言葉をかけてくださいます。その温もりがある限り、夕陽の旗を上川の地で堂々と掲げ、前進したいものです。



苦小牧支部便り 「学習・行動・前進を信条に」

苦小牧支部長 大坪 弘之
(昭和44年卒 苦小牧市立大成小学校校長)

秀峰「樽前山」を背にトヨタ・いすゞ・アイシン精機と自動車産業の集積が進む工業都市であり、そしてこの夏、全国に感動の渦を巻き起こした高校野球の街苦小牧市は今、人口十七万を超える都市に成長しました。しかし本市にあっても児童生徒数の減少は著しく学級数の減少もある中で、今年度は十名の新たな会員をお迎えし、現職会員は百五十五名、OB

会員は七十八名、賛助会員は三十名にのぼり、夕陽会の活動を力強く支えていただいております。

また現在、小中あわせて市内三十五校の内、校長は十三名、教頭は十名と、管理職の人数でいえば約三十三%が夕陽会というかつてない責任の重さと果たすべき大きな役割を担っているところです。

今年度は私も含め四名の夕陽会校長が退職しますが、登録残の教頭もあり、もうしばらくは、この程度の管理職割合が続くものと思われまます。

今年度の春に行われた苦小牧支部定期総会並びに歓迎会には、本部から幹事長の須藤由司様をお迎えし教育委員会山田教育長様をはじめ、指導室、室蘭支部、胆振連合支部からもご来賓としての出席を賜り、総勢七十名を超える数での会となりました。定期総会では、須藤幹事長様から母校の現況についてお話をいただくと同時に、苦小牧支部の信条が「学習・

行動・前進する夕陽会」であることを確かめ合い、活動方針を決定しました。主なものは

- ・会員相互の交流連携の重視、本部、胆振連合支部、室蘭支部との連携強化
- ・学校代表幹事会による支部会員の組織化と会の運営効率化
- ・若い層や女性会員の連携強化
- ・研修活動の充実と会員の資質向上
- ・会費納入促進 等

です。苦小牧の子ども達のために、そして発展する夕陽会のために会員一丸となって活動(学習・行動・前進)する夕陽会苦小牧支部であるべく、様々な活動を展開していくことを全員で決意したところです。特に、本年度は管理職試験に向けた胆振連合支部、室蘭支部との合同教育セミナー(六日間)の企画と運営、セミナー講師の派遣、そして女性会員及び若手の先生方の輪を広げるべく、女性だけの夕陽会懇話会(食事会)や若手の先生方だけの夕陽会(食事会&ボウリング)を企画運営し好評を得ました。また同期会を開催するにあたっては、支部からの財政的な支援をするなど、これからの夕陽会を支える会員の輪を広げるための活動に力を入れて来ましたが、今後、懇話会や幹事会の中で具体的な案を練りながら、輪を広げ前進する苦小牧支部の活動の力を高めて行きたいと考えています。

前納会費納入会員名簿追加分

田村 繁雄 札幌 昭25
石戸 信也 札幌 昭36
五十嵐 敏隆 渡島 昭43
紺井 健一郎 渡島 昭43
(平成十九年二月二十八日現在)

夕陽会員計報

高村 錦市氏 昭2 16・5・2
石狩市花川南6条3の172

阿波 萬衛氏 昭11 18・7・19
小樽市桜5の1の48
開米 洋氏 昭22 19・1・20
青森県五所川原市鶴ヶ岡鎌田262

相馬 莞吉氏 昭19 18・9・1
小樽市花園3の7の11
田中 時雄氏 昭6 19・2・12
函館市神山3の9の10

安保 健治氏 昭10 18・10・15
小樽市幸町2の6の12
辻 俊治氏 昭28 19・2・15
函館市富岡町2の34の14

宮崎 京子氏 昭50 18・11・26
小樽市入船4の17の6
木村 雅次氏 昭36 19・2・15
函館市西旭岡町2の4の13

二本柳常作氏 昭14 18・12・13
函館市古川町349の1
奥野 留雄氏 昭22 19・2・16
函館市深堀町38の34

石谷 辰雄氏 昭22 18・12・20
音更町飛雄が丘北1の180
小松 新也氏 昭26 19・2・19
函館市上新川町8の2

小笠原京子氏 昭28 18・12・28
東京都港区南青山3の8の40の1007
野崎喜一郎氏 昭22 19・2・21
室蘭市宮野森町2の7の14

鈴木 邦彦氏 昭20 19・1・8
室蘭市宮の森町2の7の17
和高 重義氏 昭2 19・2・22
七飯町字本町207

佐藤 郁人氏 昭47 19・1・9
函館市本通2の6の2
岡本 敏朗氏 昭30 19・2・25
小樽市新光1の16の2

(平成十九年二月二十八日現在)

前納会費制度

利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお勧めいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(隔年発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載その他慶弔規定の適用
前納会費の額は、卒業年次により異なっております。

次の四段階になっております。
①大正年代の卒業生 五千円

②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万円

③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万円

④平成元年以降の退職者 三万円

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報一九一号をお届けいたします。会員の皆様から玉稿や貴重な写真をお寄せいただきましたことに紙面をお借りし厚くお礼申し上げます。

◆今号の表紙は、学生時代によく通ったお店を取り上げてみました。①学校前の食堂『紅葉軒』。五年前に大学関係の方々が四十周年の祝賀会を開いてくれたそうです。②函館駅前大門のバー『杉の子』。杉目さんのシェーカーを振る音とハイボールの懐かしい味。来年十二月には、五十周年を迎えるそうです。③約四十年間の営業となった五稜郭行啓通りの喫茶店『チボリ』。今年一月二十五日をもって閉店しました。道路に面し向かいにあった「古城」もそうですが、懐かしい名前が消えて、寂寥の感を強く覚えます。

◆①②の写真のように、撮影した二月下旬の函館の積雪はゼロです。暖冬異変といわれる今年、地球規模の温暖化が心配されます。

◆初めて広告を掲載しました。
◆次号依頼…次回「支部だより」は小樽支部と函館市支部の予定です。準備をよろしく願っています。

(情宣部長 秋元 順一 記 昭49卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(0138) 46-2235

夕陽会専用(0138) 34-5520

FAX番号(0138) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鶴亭)氏(昭4卒)